

NCRBとは？



NCRBは、「研究用」と「教材用」の2つの部分から成る新しい形の
「共同構築型多機能データベース」

★「自然会話データを使った研究」

☞ 語用論・対人コミュニケーション研究用の『BTSJ日本語自然会話コーパス』を含む、さまざまな自然会話を格納

★「自然会話を素材とする教材」

☞ 教材作成支援機能を持つ、共同構築型『自然会話を素材とするWEB教材』

*「共同構築型」のため、最初の方が記入した説明に、追加や修正が可能で、その場合、直前の説明記入者のところに、変更(上書き)があったという連絡がメール送信される、という機能がつけられている。

共同構築型WEB教材は、世界初の試み!

利用対象者はだれか？

●日本語教師:

日本語の授業中に、日本語会話の音調や間合いの学習、討論の材料などとして、多様に活用できる。大学の日本語教育における「対面授業」の「副教材」としての利用や、授業課題として利用することも可能である。

●日本語学習者:

初級から超級に至るまでのすべてのレベルの学習者が、WEB上で自由に、自分のペースで、各自の興味に応じて学習できる。

自然会話を素材とする教材とは？

シナリオのない「自然会話」をそのままWEB教材化したもの!

*NCRBの教材の部分について、現段階では、全52会話分の動画およびその会話の文字化スクリプトが搭載されている。

20会話分の試作教材の分析結果

(2021年3月・日本国内外の大学の日本語教師10名)

①自然会話トランスクリプト教材

●5つの観点からの解説入力頻度

表1 試作教材スクリプトの各項目への説明の入力頻度と総入力頻度に占める割合

番号	教材番号	内容入力頻度	表現入力頻度			会話ストラテジー入力頻度	ポライトネス入力頻度	文化入力頻度	総記入頻度
			文法入力頻度	機能入力頻度	その他入力頻度				
1	8	8(25%)	4(13%)	2(6%)	5(16%)	6(19%)	1(3%)	6(19%)	32
2	9	6(20%)	5(17%)	4(13%)	4(13%)	5(17%)	0(0%)	6(20%)	30
3	11	7(50%)	3(21%)	2(14%)	0(0%)	0(0%)	2(14%)	0(0%)	14
4	15	8(35%)	1(4%)	1(4%)	2(9%)	4(17%)	4(17%)	3(13%)	23
18	85	7(21%)	5(15%)	0(0%)	3(9%)	11(32%)	2(6%)	3(9%)	36
19	86	9(35%)	8(31%)	0(0%)	1(4%)	4(15%)	2(8%)	2(8%)	26
20	88	50(39%)	32(25%)	8(6%)	0(0%)	4(3%)	6(5%)	0(0%)	127
平均		16.7	7.5	7.1	2.25	8.8	5.55	4.6	52.6
合計		334(32%)	142(14%)	142(14%)	45(4%)	178(17%)	111(11%)	92(9%)	1092

●5つの観点から解説入力の内容(良い説明の例)

「内容」:(ロシア人に観光地の場所を尋ねられ、地図を用いながら説明しています。)[012奈良の旅館]
「表現」:(この「といえば」という発音は、相手の発音を促す機能になっています。)[002夫婦の会話]
「会話ストラテジー」:(「どうぞ」と言いながら、深々とおじぎをすることで、話の終結を示しています。)[17奈良の旅館⑤]

「ポライトネス」:(笑いながら、頭を横に振り、控えめに相手の発言を否定している。)[17奈良の旅館⑤]

「文化」(日本では、目上の人の注文を一番最初にする。)[038 シドニーのレストラン-I 料理を注文する]

②Q&A教材

●各Stepごとの問題作成頻度と割合

表2 試作教材(Q&A)の各Stepごとの問題作成頻度と総頻度に占める割合

番号	教材番号	Step1設問入力頻度	Step2設問入力頻度	Step3設問入力頻度	設問入力総頻度
1	8	3(15%)	9(45%)	8(40%)	20
2	9	6(24%)	11(44%)	8(32%)	25
3	11	5(33%)	5(33%)	7(47%)	15
4	15	3(20%)	7(47%)	5(33%)	15
18	85	3(23%)	6(46%)	5(39%)	14
19	86	3(20%)	6(40%)	6(40%)	15
20	88	8(26%)	11(35%)	12(39%)	31
合計		102(24%)	161(38%)	161(38%)	424

●各Stepの設問内容

例1:[083 昼食事情-I-I] (良い設問の例)

Step1 (動画視聴前): 「大学生2人が大学のカフェラサで会話をしています。」

「あなたなら、何について話しますか?」

Step2 (動画視聴後): 「動画の女性にとって、夏にお弁当を作るデメリットは何ですか?」

Step3 (動画視聴後): 「この人たちはどんな関係でしょうか?」

「(二人がそのような)関係であることは、どうしてわかりますか?」

例2:『ゼミ合宿の食事について話す』(非母語話者の背景を考慮できていない例)

「Step1」(動画視聴前): 「(話者)二人の仕事は何だと思いますか?」

「(話者)二人はどんな関係だと思いますか?」

例3:『大学生の就職活動についての会話』(Step2の設問方針に沿っていない例)

「Step2」(動画視聴後): 「就職で就職するのは大変だと思いますか?」

学習者は、「ゼミ合宿」を知らない可能性があるため、この言葉から、「大学生」「クラスメート」という答えを期待するのは難しい。

例3の設問はステップ3が適当である。

「教材作成支援機能」とは?

・教材作成のための動画データ

- ☞ 自身が収録した動画データをアップロードし、教材作成を行う
- ☞ 他の人がアップロードした動画データを利用し、追加説明などを記入

・2種類の教材の作成

- ①「自然会話トランスクリプト教材」: 発話ごとに5つの観点から解説を記入
- ②「Q&A教材」: Step1~3のレベルに応じた設問を作成

①「自然会話トランスクリプト教材」作成の方針

「トランスクリプト教材」作成の5つの観点
【会話ストラテジー】 会話の中におけるストラテジー(ばかし、話題の展開方法)と考えられるものについて説明を記入する。
【内容】 動画の中での話の筋や展開、文脈に関する説明を記入する。
【表現】 文法に関する説明を記入する。言語的表現、単語や慣用語などの機能について説明を記入する。その他、説明すべきがあれば、記入する。
【ポライトネス】 単に敬語を使っているかどうかではなく、どのような配慮がなされているかという観点から、説明を記入する。
【文化】 文化にかかわる説明や情報などを記入する。



※発話ごとに、「内容」「表現」「会話ストラテジー」「ポライトネス」「文化」5つの観点から、該当する学習項目の解説を記入することができる

②「Q&A教材」作成の方針

「Step1」は、動画を視聴する前に、その会話展開を予想するためのものであり、日本語学習者の予備知識や会話内容への理解力を確かめるための設問にする。
「Step2」は、動画を視聴した後に、会話内容の理解を確認するための、スクリプト内容を確認すれば答えられるような比較的シンプルな設問にする。
「Step3」は、会話における登場人物の人間関係や発話内容に明示的に表現されていないが、話者同士の関係などが反映されている「言葉遣い」や、発話の含意を確認するような設問とする。



※選択問題や記述問題を作成したら、回答を記入してください。また、内容と関連するライン番号も追加してください。

まとめ(教材作成の注意点)

- *5つの観点のうち、会話の「内容」や「表現」、「会話ストラテジー」の説明も重要だが、多様な学習者が会話を総合的に理解するための背景知識を提供する「ポライトネス」や「文化」に関する説明も充実させる必要がある。
- *Q&Aの設問(「Step1(動画視聴前の予備知識の確認)」「動画視聴後」「Step2(簡単な内容確認)」、「Step3(敬語使用から話者の関係を推測させるなど、より掘り下げた設問)」)に合わせて設問を作成する必要がある。

本研究は、国立国語研究所の機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」、サブ・プロジェクト「日本語学習者の日本語使用の解明」(リーダー:宇佐まゆみ)、およびJSPS科研費挑戦的研究(萌芽)18K18685「コミュニケーション能力を高める自然会話教材の高度共有化-共同団体の構築に向けて」(研究代表者:宇佐まゆみ)の成果の一部である。